

うに郷通信

No.150
令和4年(2022)1月

発行：🍷 宇仁郷まちづくり協議会 (編集:情報部会)

新年のご挨拶

会長 稲木善英



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはご健勝にて新しい年をお迎えになりましたこととお慶び申し上げます。

令和2年10月1日に病院や買い物等への移動手段として「宇仁ふれあいバス」を導入して以来1年3ヶ月が経過しました。この間のご乗客は11月30日現在で1,011人がご利用になりました。ありがとうございます。

当初13人でスタートしたうにバスですが、現在は若い運転手さん2人が参加し15人が「無事故」で元気にバスを走らせています。お気軽にどうぞご利用ください。

そして懸案でもありました、多加野地区はつらつ委員会が2校区への分割で誕生した「宇仁校区はつらつ部会」の協議会への編入が、昨年6月の協議会総会で正式に承認されました。それ以後、10月のコスモスまつりで「三世代ふれあいグラウンドゴルフ大会」を実施するなど地域の要望に沿った交流や福祉活動を活発に実践しています。

また令和3年で発足10周年となった「ふれあい喫茶」は、何でも話せる宇仁地区のコミュニティーの場を提供しようと16人の女性スタッフが懸命に頑張っています。その他の8部会もコロナ禍で大変な状況の中、諸活動に地道な努力を重ねています。

しかし、朝市部会の部会長さんが、宇仁郷通信11月号で「組織の若返りや、活性化がないと今後5年先、10年先への継続的な事業運営が支障をきたします、ご支援ご協力をお願い致します。」と地域の皆様に懇願されているように、いま協議会の組織改革はすべての部会活動に共通する課題となってきました。

“定年制度延長”等の影響で困難なことが多く付きまとう現在ですが、問題解決に向けての対応は避けて通れません。具体的な「改革」への対策は今後「協議会意見交換会」等で協議し、皆さま方へ提案をして参りたいと考えていますので、ご理解とご支援ご協力をよろしくお願い申し上げまして、年頭にあたりましての挨拶といたします。

綿の種を配りました



12月18日(土)滝野温泉「ばかぼ」において、宇仁小学校3年生の児童10人が、授業の一環で自分たちが育てて収穫した「綿の種」を宇仁の朝市に来られたお客さんに手渡して配りました。当日は今冬最初の寒波到来で、雪もちらつく大変寒い朝となりましたが、校長先生や付き添いの先生その他、保護者の方も多数参加され、用意した綿の種を元気いっぱい配りました。

朝市スタッフは児童たちに食べてもらうための焼き芋を準備し、また、体が温まる手作り料理の差し入れ、がいな製麺所による朝市の具材を使ったうどんの早朝販売もあり、お客さんも含めて各人それぞれが舌鼓を

打ちました。翌19日(日)は青野店で3年生児童7人が綿の種を配ってくれました。

最後に、旧年中はお世話になりました。今年も引き続き「宇仁の朝市」をご利用いただきますようよろしくお願いいたします。(宇仁の朝市部会)

あなたのまちを宇仁ふれあいバスが行く！

あなたは宇仁ふれあいバスに乗ったことがありますか？ うにバスに乗れば中富口経由で北条に買い物、病院、市役所へ行けます(中富口からは乗り継ぎ券を渡します)。うにバスに乗れば滝野のAコープで買い物、農協、郵便局、医院、JR滝野駅へ行けます。

利用者さんの独り言 “若いもんに頼んで連れて行ってもろて、待ってもろてぞら嬉しいけど気を遣うねん。せやけどな、まだまだ歩けるし自分で行けるのはうれしいで。病院、買い物、散髪など自分で行けて楽しいわ！ また乗るから頼むで” うれしい独り言です。運転手さんたちもこの独り言に励まされています。皆さん一度乗ってみませんか。(宇仁ふれあいバス部会)



宇仁小学校の思い出 ⑩ ～羽ばたけ宇仁っ子～



新校舎の中で、子ども達が笑顔で学んでいる姿が目には浮かびます。新校舎建設に時間がかかったのは、市の財政事情、学校再編の動き、そして最大のネックは子どもの数が少ないということでした。そんな逆風の中、長年、校区をあげての懸命な取り組みが実を結び、新校舎は建設されました。数々の厚い壁を打ち破ったのは、宇仁校区の強い絆と行動力でした。

今日、社会は、日々刻々と変化しています。特に新型コロナの感染拡大は、人々の考え方、働き方や生活のスタイルを大きく変えました。学校においては、対面の学習に加えオンライン学習が普及し学習の幅が広がりました。神戸市の小規模校は、但馬や淡路の小規模校とのオンラインでの交流学習により、子ども達の考え方を深めるよい機会になったと報告しています。香美町では子どもの積極性を狙って、小規模校間で体育や音楽の合同学習を行い成果をあげています。

今後、学校では、オンラインによる「人ひとりの子どもの能力や才能に応じた学習が充実します。個別学習と合同学習双方の利点をうまく組み合わせれば小規模校教育の質の確保・向上への不安は解消されるでしょう。

教育は、明日に向かってしっかりと種を蒔き苗を育てる営みです。よき土壌で育った苗は病気に強く多くの実を結びます。教育にあっても、同様なことが言えます。

宇仁校区は社会的ネットワーク活動が活発で地域の絆が強いコミュニティーであり、子どもの成長の基盤となる教育環境は整っています。この豊かな教育的土壌のもと、理想の教育を実現しようとする学校とそれを支える校区ががっちりと手を組めば、子ども達はすくすくと成長していきます。子ども達が、宇仁小学校の校風と伝統を受け継ぎ、この学校で学んだことに誇りをもって、世界に羽ばたく人材に成長していくことを期待します。

結びに、宇仁小学校及び宇仁校区の益々の発展を願うとともに皆様方のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。
(元加西市教育長 吉田 廣)

宇仁郷のあゆみ 第一章 宇仁郷の黎明期⑤

⑤加古川西部土地改良事業による農地改革

⑤-3 竣工記念碑

竣工記念碑には、この事業を後世に伝えるため『歴史の一頁に燦然と輝く大事業 ○○地区ほ場整備事業が関係各位の英知と不断の努力によって幾多の困難を克服し、竣工を見ました。この事業の概要を記し、後世に遺すと共に整備された土地基盤に人々の情熱を注ぎ、近代農業の確立と環境整備の充実を図り、この事業を通じて培われた強い連帯の絆のもと○○地区が更に大きく躍進することを記念し、ここに記念碑を建立するものであります。』と記され、また尽力された方々の芳名が刻まれています。(○○は八王子、宇高に読み替え)



八王子地区竣工記念碑



宇高地区竣工記念碑

県営ほ場整備事業の概要

地区	町名	面積	総事業費	農家戸数	工期
八王子地区	馬渡谷 大工 鍛治屋	218ha	20億 6,800万円	308戸	昭和57年度 ～平成7年度
	油谷 田谷 国正 小印南				
宇高地区	青野 油谷 小印南	291ha	21億 8,470万円	451戸	昭和57年度 ～平成6年度
	別府 都染 高岡				

編集後記

宇仁郷通信は記念すべき150号を達成することができました。毎月発行を基本としていますが、初号が2009年3月ですから、過去13年間で5回発行できなかつた月があったこととなります。発行当初はアステリアかさいまで行って輪転機でモノクロ印刷し、持ち帰って数人で仕分けするという苦労もあったようです。現在、カラー印刷はWeb発注で、しかも100枚ずつ合紙して納品されるので仕分けも簡単になりました。

今後とも宇仁郷通信の継続発行にご理解いただき、執筆等のご協力をお願いします。(情報部会)